

3 月 23 日は世界気象デー

世界気象デーとは

世界気象機関(WMO)は、1950 年(昭和 25 年)3 月 23 日に世界気象機関条約が発効したことを記念して、この日を世界気象デーとし、毎年キャンペーンテーマを設けて気象知識の普及や国際的な気象業務への理解の促進に努めています。今年のキャンペーンテーマは、「極地の気象学－世界的な影響を理解する」です。

WMO と極気象

北極海の水氷及び南極半島周辺の棚氷の減少や、気候モデルが予測する気温上昇などに見られる極地域での気候の変化は、海水面の上昇や大気・海洋循環の変化により、遠く離れた生態系や人間社会へも大きな影響を与えると考えられています。

極地域の気候とその生態系、環境及び社会への影響に関する理解を深めるため、WMO は国際科学会議(ICSU)と共同で科学研究計画「国際極年 2007-2008」を推進しています。国際極年は、極地域での国際的かつ学際的研究及び観測を促進する役目を果たすもので、1882～1883 年にその第1回目が実施され、今回は第4回目にあたります。WMO の諸計画の推進に必要なデータや科学的知見を得るため、WMO は極気象学、海洋学、氷河学及び水文学の分野での科学的研究・観測で、国際極年 2007-2008 に貢献しています。

本年の世界気象デー

今年(2007 年)の世界気象デーを迎えるにあたり、WMO では、広く極気象学の取り組みの重要性を[広報しています](#)。気象庁では、昭和 32 年から南極昭和基地で気象観測を行っており、WMO の世界気象監視(WWW)計画などを通じて、そのデータを提供するなど国際的な計画の活動に参画しています。また、南極昭和基地での観測が今年で 50 年を迎えたことから、より幅広い世代の方々に理解と関心を深めていただくため、気象庁では、2月9日から3月9日まで[南極気象観測 50 周年記念事業](#)を行っております。

WMO の概要

設立目的	気象業務に係る国際的な調整・標準化・改善、気象情報の交換促進
設立	1950 年 3 月 23 日
事務局	スイス・ジュネーブ
加盟構成員	182 カ国・6 領域、我が国は 1953 年(昭和 28 年)に加盟
ホームページ	http://www.wmo.int

問い合わせ先 : 総務部企画課国際室
電話 03-3212-8341 (内線 2267)